

行政改革推進会議及び閣僚懇談会における閣僚発言等

第 52 回行政改革推進会議（令和 5 年 3 月 31 日）

○岸田内閣総理大臣発言

本日は、行政事業レビューと基金について、委員の皆様にご議論をいただき、御賛同いただきました。

まず、行政事業レビューを抜本的に見直します。レビューの実施単位について、約 60 兆円に上る政府の全ての予算事業に合わせて標準化します。その上で、全ての行政事業レビューシートについて、事業の性質に応じて EBPM、すなわち、エビデンスに基づく政策立案の手法を本格的に導入し、来年度の予算編成から活用していきます。

これにより、長年続いてきた事業であっても、データに基づいて効果を検証し、効果が上がっていないものは迅速に見直す。未知の課題に対して速やかに政策を実施した上で、データを踏まえて柔軟に軌道修正を行うことを通じ、限られた資源を有効活用しつつ、時代の変化に柔軟に対応する行政の実現に取り組んでまいります。

また、基金についての点検を強化いたします。具体的には、EBPM の手法を基金シートにも取り入れ、基金事業の効果の見える化、最大化を進めてまいります。あわせて、保有資金の規模や事業の終期設定が適切かなどについて、第三者の目を入れた点検を導入し、余剰資金があれば迅速に国庫に返納するなどの取組を進めます。

これらの取組を、岡田大臣の主導の下、総務大臣、財務大臣とともに、各府省と連携して着実に進めてください。委員の皆様には、引き続き御協力をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

○岡田行政改革担当大臣発言

1 ページ目、冒頭にありますように、昨年 12 月、総理から行政事業レビューの抜本見直しと基金の執行チェックの徹底について御指示がありました。この御指示を踏まえ、下段にありますように「1. 行政事業レビューへの EBPM の導入と予算編成過程での積極的な活用」、そして「2. 基金事業の点検の強化」を今後の改革の二本柱として具体的方針を決定し、来年度から実行に移したいと、このように考えております。

まず「行政事業レビューの抜本見直し」について、2 ページを御覧ください。ページ上段であります。行政事業レビューの目指す姿としまして、約 5,000 事業、一般会計で約 60 兆円に上る国の全ての予算事業について、EBPM の手法を本格的に導入してまいります。これにより、①長年続けられてきた事業であっても、時代にそぐわなくなった

ものは廃止も含めて見直す。②未知の課題に対しても、手遅れになる前に、最善と考える政策を速やかに打ち出して柔軟に軌道修正する。こうした時代の変化に機動的・柔軟に対応できる気風を霞が関に定着させてまいりたいと考えております。下段に「具体的方策」として、まず（１）、レビューシートの作成単位を予算編成で議論している単位にそろえる標準化を行って、令和６年度予算の編成から積極的に活用いたします。

次に、（２）、レビューシートとレビュープロセスを見直します。まず、レビューシートについては、具体的な成果目標を、段階的に短期、中期、長期と設定することとして、それぞれの目標年度における政策効果の把握と見直しを徹底いたします。

加えて、レビュープロセスにおける点検については、過去に指摘のなかった事業では簡素化を図るなど、めり張りをつけて、効果的かつ効率的に行いたいと考えております。

続いて「基金事業の点検強化」について、３ページを御覧ください。上段の「目指す姿」であります。基金事業には、①中長期的視点から柔軟な執行ができるメリットと、②執行管理が難しいといったデメリットがございます。メリットを生かしながらデメリットに適切に対応するために、全ての基金を対象に、執行状況の点検を強化して、効果的かつ効率的な資金の利用や余剰資金の国庫返納などを進めてまいります。下段に「具体的方策」を記載しておりますが、まず（１）、基金シートにもEBPMを取り入れ、政策効果の「見える化」と「最大化」を図ります。次に、（２）外部有識者による点検を新たに導入します。これにより、基金に対してよく指摘されます、今後の事業見込みに対して保有資金が過大ではないか、また、事業の終了時期を設定すべきではないか、また、管理費の水準が妥当か、こうした点を厳しくチェックしてまいります。

最後に、４ページを御覧ください。今回の見直しが実効性あるものとなるように、個別のレビューシートの品質管理を政府全体で計画的に進めてまいります。

まず、４月に、各府省からなる会議体を設置するなど「府省横断的な推進体制」を整備するとともに、優れた取組の選定や表彰も進めたいと思います。その上で、９月には、先行して取り組んできた「重点フォローアップ等の結果を公表」し、横展開を図ってまいります。

また、１１月の「秋のレビュー」では、基金を巡る課題について集中的な議論を行います。さらに、来年春の「行政事業レビューシートシステムの稼働」により、作業負担の軽減や透明性の向上を図ります。

これらの内容について、実施要領の改定などを行います。その詳細は別添の資料２から４に書かれてございます。このほか、報告資料として、資料７から１０を配付しております。

○松本総務大臣発言

総務省のほうから、資料5を提出させていただいております。お聞きいただくと、表紙の裏側に概要の図がございますので、御参照いただけたらと思っております。

今回、政策評価に関する基本方針の一部変更をさせていただくのですが、社会経済情勢の変化に対応できる行政の実現には、政策の効果と現状を把握の上、機動的かつ柔軟に軌道修正しながら前進する政策展開が必要であります。

このため、昨年12月の総理の御指示を受け「政策評価に関する基本方針」を見直すこととし、政策効果の把握、分析機能の強化を図り、政策の実施状況や効果の的確な把握と意思決定過程における一層の政策評価の活用に、政府全体として取り組むこととしました。

その際、政策評価と行政事業レビューが政策の改善ツールとして連携し、一体として効果を発揮するため、政策評価や行政事業レビュー等から得られた政策の改善に資する指標等の情報を相互に活用・集約することで、作業の重複排除と評価書等の質的向上を図ることとしております。

総務省としては、こうした取組が実効性あるものとなるよう、行政事業レビューとも連携し、取組の実例やノウハウの蓄積・提供など、各府省の支援に取り組めます。

新たな挑戦や前向きな軌道修正を積極的に行うことが、行政の無謬性にとらわれない望ましい行動として高く評価されることを目指し、しっかり取り組んでまいります。

○井上財務副大臣発言

岡田大臣から御紹介がありました行政事業レビューシートの内容や単位の見直しにつきましては、予算編成過程におけるEBPMの実践に向けて重要なものだと我々も考えております。

加えて、令和6年度に稼働が予定されております行政事業レビューシステムにつきましては、データの活用による政策や予算の質の向上にとって重要であると考えております。

財務省といたしましても、デジタル技術等を活用し、予算編成業務の効率化を図ってまいりたいと考えております。

また、予算の透明性や質の向上を図る観点から、エビデンスに基づいた予算編成を行うことは重要だと考えておりまして、各府省との予算編成過程におきまして、行政事業レビューや行政評価などを積極的に活用してまいりたいと考えております。

○岸田内閣総理大臣発言

ただ今行政改革担当大臣から、行政事業レビューの抜本見直しと基金事業の点検強化について報告がありましたが、これらは、限られた資源を有効活用し、時代の変化に機動的・柔軟に対応する行政を実現するための重要な取組です。

各大臣においては、行政事業レビューシート等について、予算編成過程での活用や品質管理徹底など、各府省での取組をしっかりと進めてください。

○岡田行政改革担当大臣発言

先週金曜日の行政改革推進会議において、行政事業レビューの抜本見直しと基金事業の点検強化について決定しました。

まず、行政事業レビューについては、EBPMの手法を取り入れ、予算編成過程において、レビューシートを積極的に活用していくこととします。

次に、基金事業については、外部有識者による点検の導入など、執行状況の点検を強化して、効率的な資金利用や余剰資金の国庫返納を進めていきます。

また、政府全体として、レビューシートの品質管理などを適切に行うため、府省横断的な推進体制を新たに整備し、各府省内の推進体制との連携を強化することについても決定しました。

これらの取組については、いずれも令和五年度から開始します。

各大臣におかれては、レビューシートの予算編成過程での活用や品質管理の徹底などをしっかりと進めていただくようお願いいたします。

○鈴木財務大臣発言

行政事業レビューシートの内容や単位の見直しは、予算編成過程におけるEBPMの実践に向けて重要なものと考えております。

各大臣がしっかりと今回の見直しの趣旨を踏まえ、リーダーシップを発揮してEBPMの実践に向けた取組を進めていただくことが重要と考えております。

財務省としましても、予算の透明性や質の向上を図る観点から、各府省との予算編成過程において、行政事業レビューや政策評価などを積極的に活用してまいります。